**校　長　大森　孝志**

**令和２年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 予測困難な時代に一人ひとりが未来の創り手となるために１　生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。２　地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。 |

２　中期的目標

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ｱ　基本方針卒業時に生徒が身に付けていること・自ら考え、行動する力　　　・人を思いやる気持ち　　　・多様な人と協働できる力　　・基礎、基本を土台とした、思考力、判断力、表現力　　　・挨拶の習慣　　　　　　　　　・読書習慣ｲ　確かな学力の育成1. カリキュラム委員会においてカリキュラム・マネジメントを確立し、新学習指導要領などで求められる力を育てる。
2. 各教科等の内容を相互の関係でとらえ、３年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるように総合学科としてのカリキュラムを実施する。また新課程に向け新カリキュラムを検討する。
3. 「何が身についたか」の評価方法を検討する。
4. 授業改善に取り組む。主体的・対話的で深い学びを通し、思考力・判断力・表現力を高めるようにする。

ｱ　わかりやすい授業を行う。ｲ　生徒が考える授業を行う。（思考力、判断力）ｳ　生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする。（表現力）ｴ　基礎的、基本的な知識及び技能を確実に身につけさせる。ｵ　話し合い、調べ学習、発表、実験、実習、地域貢献等を通して、考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。そのためにｶ 公開授業、研究授業、授業見学、研修、授業アンケートなどを活用した授業改善に組織的に取り組む。ｷ 生徒一人ひとりの能力や特性（ニーズ）に応じた個別学習や協同学習を展開し、より意欲的で深い学びを実現するため、授業力アップチームが中心となり、普通教室や各種特別教室におけるICT機器を活用した授業の研究を進める。ｸ　 生徒自身が自ら学び、授業以外でも学習できるように取り組む。※授業アンケートにおける「興味関心が持てた」「知識技能が身についた」の第一評価をR４年度に50%以上（H29:31%,32% H30:35%,38% R１:38%,39%）にする。※学校教育自己診断（生徒向け）での「教え方に工夫をしている先生が多い」の第一評価を15%UPさせR４年度に38％（H29:24% H30:21% R１:23%）にする。

|  |  |
| --- | --- |
| 第一評価 | よくあてはまる |
| 第二評価 | ややあてはまる |
| 第三評価 | あまりあてはまらない |
| 第四評価 | 全くあてはまらない |

　　 備考　　評価の基準ｳ　生徒の「やる気」スイッチをオンにする1. 効力感、達成感の育成
2. 教科や教科横断的な行事などの中で自己表現をしたり、認められたりする場を広げる。
3. 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援するとともに部活動参加率70％以上をめざす（H29:66% H30:68% R１:66%）。
4. 小学校、中学校、大学との連携を深める。また地域ボランティアなどの貢献活動を持続する。
5. 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。
6. キャリア教育の推進、キャリアアンカーの形成
7. 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、３年間を通じたキャリア教育を充実させる。
8. 日々の学習、フィールドでの発表や研修などを通して、自分の進路や生き方を考えられるようにする。
9. 進路実現の支援: ４年制大学進学希望者の４年制大学への進学率を90% (H29:71% H30:80% R１:69%)以上にする。就職希望者の就職率100％

　(H29:100% H30:100% R１:100%)を維持する。1. 資格取得の推進

※学校教育自己診断（生徒向け）で「授業で発表する機会がある」の第一評価を、R４年度までに50%（H29:31% H30:38% R１:42%）にする。 「ガイダンスは分かりやすい」の否定的評価（第三、四評価の合計）を、R４年度までに10%以下（H29:25% H30:16% R１:18%）にする「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価を、R４年度において50%以上を維持（H29:49% H30:53% R１:59%）する。 ｴ　安全で安心な魅力ある学校づくり 1. 生徒の規範意識を醸成する
2. 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
3. 生徒が自分で判断して自らの行動を律することができるようにする。
4. 生徒が安心して学校生活が送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。
5. 課題のある生徒についてSCと緊密に連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明示していく。
6. 保護者連携・地域連携を一層推進していく。
7. 働き方改革

※学校教育自己診断（保護者・生徒向け）での「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価（第三、四評価の合計）をR４年度までに、生徒向け10%以下（H29:32% H30:27% R１:29%）、保護者向け10%以下（H29:20% H30:21% R１:21%）にする。ｵ　グローバル人材の育成1. 日本語指導の必要な帰国生徒・外国人生徒の指導
2. 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。
3. 日本人生徒との交流の促進
4. 国際交流の推進
5. 生徒の短期語学研修の実施（英語圏、中国語圏、韓国語圏）
6. 外国の学校との相互交流の実施

※語学研修の回数を年１回行い、参加者10人程度(H29:17人 H30:12人 R１:19人)を維持する。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［令和２年12月実施分及びこの５年間の比較］ | 学校運営協議会からの意見 |
| ※下の表の数字は生徒回答の第一評価の%生徒たちは本校に来る意義を感じている

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| 学校に行くことに意義を感じている | 49 | 40 | 39 | 31 | 38 |
| 門真なみはや高校に入学してよかったと感じている | 65 | 54 | 48 | 48 | 52 |
| この学校は自分にあったフィールドや科目がある | 61 | 55 | 53 | 50 | 48 |

授業を受ける環境が整ってきている

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| 生徒が静かに授業を受ける環境がある | 43 | 29 | 28 | 28 | 31 |
| 教室はきれいで、授業を受ける態勢ができている | 38 | 31 | 33 | 29 | 32 |

授業における教え方の工夫において改善の余地がある生徒が自分の考えをまとめ、発表する機会は増えてきている補習、講習に関しては数年前の方が数値がよい

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| 教え方に工夫をしている先生が多い | 33 | 23 | 21 | 24 | 19 |
| 授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある | 43 | 42 | 38 | 31 | 30 |
| 授業の補習や進学講習は十分用意されている | 39 | 39 | 39 | 45 | 42 |

指導に対する生徒の納得感は増してきている

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| 学校の制服・遅刻・頭髪指導は適切だと感じる | 42 | 37 | 32 | 33 | 44 |
| 学校生活について先生の指導は納得できる | 37 | 34 | 28 | 25 | 29 |
| 先生は生徒に対して適切な態度や言葉遣いで接している | 47 | 42 | 39 | 34 | 32 |

生徒会行事に意義を感じる生徒は増えてきている

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| 文化祭、体育祭、球技大会などの生徒会行事は有意義だ | 72 | 61 | 61 | 53 | 54 |

将来の進路、生き方について十分考える機会が与えられている

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| 将来の進路や生き方について考える機会がある | 71 | 59 | 53 | 49 | 51 |

命の大切さや、社会のルールについて学ぶ機会があるといえる

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| 命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある | 41 | 44 | 41 | 36 | 36 |

この学校では、十分人権に配慮がなされている

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| この学校では、十分人権に配慮がなされている | 59 | 53 | 45 | 44 | 45 |

生徒が教員に対してより相談しやすい環境を作る必要があるいじめがないと言う生徒が増えてきている

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| 何かあれば、相談できる先生がいる | 33 | 33 | 34 | 32 | 29 |
| この学校では、教職員が「いじめ」がおこらないように気を配っている | 32 | 36 | 30 | 33 | 50 |
| この学校では、生徒間の「いじめ」はみられない | 69 | 58 | 53 | 61 | 68 |

制度説明が適切になされている

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R２ | R１ | H30 | H29 | H28 |
| フィールドや選択科目のガイダンス指導はわかりやすい | 52 | 39 | 41 | 30 | 26 |
| 奨学金制度について、紹介や説明がなされえいる | 48 | 48 | 52 | 49 | 47 |

 | 第１回　８月19日○R２年度学校経営計画について・生徒たちが力をつけるために、色々と工夫されていることが分かった。オンライン授業の対応も検討されているとのことで努力されていると感じた。・中学校も、行事、部活、班活動などいろいろと制約を受けている。高校でもピンチをチャンスに変えられるよう発想を転換してもらいたい。・進学に向けて不安をかかえている生徒たちのことが心配。・コロナ禍で学習保障はもちろん必要だが、心のケアが重要だと感じる。不登校が増えている実態がある。オンライン授業について情報交換しながら進めていただきたい。・３年生の行事に保護者が参加できないことは寂しく感じるが、行事自体がなくなってしまわず実施できることはせめてもの救いだと感じる。第２回　10月21日○授業見学の感想・生徒たちが自分で選んだフィールドだけあって、ポジティブに授業に取り組んでいた。・１年次のリベラルアーツ(教養)の部分が土台になって、２，３年生では専門的な取り組みがなされているのだろう。・もっと生徒のアウトプットを引き出すようなやり方を工夫できるのではないか。・毎年毎年、授業内容が洗練されていると感じる。・生徒が助けを求めることにハードルが低いと感じた。教員と生徒の関係ができているということだろう。第３回　１月20日○全体的に見た意見・コロナ禍で大変な中、授業アンケート結果が上昇するなど頑張っておられると感じた。・進路、キャリア教育に関する項目のポイントが急上昇している。生徒は学校に魅力を感じているのだろう。・PTA活動が思うように進められず残念だったが、学校が生徒のために力を入れてくれていることが伝わった。・「なみはやに来てよかった」などの数値が上がっている。中学校では、生徒減に伴う教員減もあり部活動を維持していくことが困難になっているところもある。・異例な一年のなかでも自己診断や授業アンケートが毎年いい評価になっている。先生が生徒を支えていこうという意欲が表れていると感じる。引き続き頑張っていただきたい。・授業アンケートでは、「必要なときには予習や復習を行っている」項目が伸びていくことが重要。これが課題。○令和２年度学校評価について・校長からの説明の後、学校教育自己診断の結果と分析に関する意見が出され（上記）、審議後承認された。○令和３年度学校経営計画について・校長からの説明の後、審議され承認された。 |

３本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| イ　確かな学力の育成 | 1. 新カリキュラムの検討
2. 各教科を中心とした授業改善
3. 主体的、対話的で深い学びをめざす
 | 1. カリキュラム委員会で次期指導要領の内容の研究、新カリキュラムの検討をする。

ｱ・わかりやすい授業を行う。・生徒が考える授業を行う。・生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする授業を行う。・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。ｱ・ICTなどの活用・生徒自身の発表の機会を設ける等授業形態の工夫をする ｲ　教員相互の授業見学と研修・教育実習期間に合わせた教職経験年数が浅い教員による授業見学及び研修の実施 ｳ　自主的な学習の推進1. 授業以外の学習時間を前年比10%以上の増加を図る。
2. 読書習慣を身につける
 | ｱ・カリキュラム委員会実施回数　15　回　（R1,16回）・職員研修　１　回以上 (R1,1回)ｱ　授業アンケート「知識や技能が身に付いた」の第一評価を42%以上（R1,38%）にするｱ　生徒自己診断「教え方を工夫している先生が多い」の第一評価を28%（R1,23%）に、「授業で発表する機会がある」の第一評価を45%（R1,42%）にする ｲ　教員自己診断「指導方法の改善・工夫が行われている」の第一評価を22%（R1,17%）にする ｳ1. 学習時間目標（平日）

　１年生30分（R１　28分）２年生30分（R１　26分）1. 新一年生の朝の読書活動維持
 | ｱ・カリキュラム委員会の活動委員会実施回数　15回　　委員会主催の職員研修を２回実施、内容は授業でのICTの活用法。それに加え職員会議冒頭の10分を活用した授業実践例の紹介を６回実施した。このミニ研修は次年度も継続実施する。　（○）ｱ　授業アンケート「知識や技能が身に付いた」の第一評価は47%（R1,38%）（◎）ｱ　生徒自己診断「教え方を工夫している先生が多い」の第一評価は33%（R1,23%）、「授業で発表する機会がある」の第一評価は43%（R1,42%）（○）ｲ　教員自己診断「指導方法の改善・工夫が行われている」の第一評価は21%（R1,17%）（○）ｳ　①学習時間目標（平日）１年生44分（R１　28分）２年生25分（R１　26分）　１年生は目標を大幅に超えたものの、２年生は昨年度を少し下回っている。２年早期に受験勉強のスタートを切らせることが次年度の課題である。（△）②新一年生の朝の読書活動は１年間継続して実施できた。一時間目の授業がスムーズに入れると言った肯定的な意見がある。しかしながら、クラスによって取り組み状況にばらつきがある。５分間の時間の短さ、教室移動の多さが予想以上の障害になっているようだ。次年度への継続また形態の変更等については新一学年と相談の上決定する。（○） |
| ウ　生徒のやる気スイッチをオンにする | 1. 効力感、達成感の育成
2. キャリア教育の推進
3. 進路実現の支援
4. 資格取得の推進
 | ｱ　部活動参加率を上げる。　部活動の説明会などを充実させ、全学年の生徒の部活動の加入率を高める。ｲ　地域連携　地域の小中学校への出前授業や、他の機関と連携して地域に根差した学校とする。1. 「産業社会と人間」から始まる３年間のキャリアプランの作成・２，３年生のキャリア教育の充実
2. 生徒が選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実する。
3. 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。
4. 生徒が資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。
 | ｱ　部活動加入率を70%以上(R１、66%)にするｲ　市内小中学校や地域諸機関との連携の継続ｱ　自己診断「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価50%以上を維持（R１、59%）ｲ　自己診断「ガイダンスはわかりやすい」の否定的評価（第三、四評価の合計）を15%以下にする （R１、18%）ｱ　３学年当初の４年制大学進学希望者の４年制大学への進学率を90%以上にする　　　　　　　（R1,1月現在55%）就職内定率100%を維持する（R1, １月現在100%）1. 受験者数の増加
* 漢字検定受験者数80名（R１　68名）
* 英語検定準２級以上（CEFR　A２以上）の生徒数100名（R１　89名）
* 選択したフィールドに関する資格試験の受験率（パソコン検定など80%以上維持）

　　　　　　　　　　　　(R1,100%) | ｱ　部活動加入率74%(R１、66%)　次年度も70%以上の加入率を維持したい。（○）ｲ・コロナ禍の中、市内小中学校との連携はできなかったが、外出できない地域のお年寄りと福祉フィールドの生徒が手紙で文通をし、それがオンラインの交流へと発展し、メディアに取り上げられた。・保育の授業で、近隣の保育園とオンライン交流を実施した。次年度も形態を模索しつつ連携を継続する。（○）ｱ　自己診断「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価は71%（R１、59%）（◎）ｲ　自己診断「ガイダンスはわかりやすい」の否定的評価（第三、四評価の合計）は９% （R１、18%）（◎）ｱ　３学年当初の４年制大学進学希望者の４年制大学への進学率は84%就職内定率は100%を維持した。（○）ｱ　受験者数の増加* 漢字検定受験者数48名（R１　68名）
* 英語検定準２級以上（CEFR　A２以上）の生徒数33名（R１　89名）
* 選択したフィールドに関する資格試験の受験率100%　(R1,100%)　次年度はより一層受検への呼びかけを強める必要がある。（△）
 |
| エ　安全で安心な魅力ある学校づくり | 1. 生徒の規範意識の醸成
2. 課題のある（困り感のある）生徒の支援
3. 保護者連携・地域連携の一層の推進

(４)働き方改革 | ｱ　規範意識を持たせる。生徒が指導の目的を理解した上での指導の実践ｲ　情報リテラシーの育成。特にSNSの利用について、リテラシーを高める。ｱ　軽微なことでも生徒についての情報を共有する情報交換会を継続実施ｲ　生徒相談室を充実させるなど相談体制の充実を図るｱ　保護者連携の推進のため、メールの一斉配信など確実な連絡を行う。ｲ　災害等非常時に備え、全生徒にメール配信システムを登録させる。ｱ　会議でのペーパーレス化を進める。 | ｱ・自己診断「制服・遅刻・頭髪指導は適切である。」第一評価を 41%（R1,37%）にする・自己診断「先生の指導は納得できる」第一評価を 38%（R1,34%）にするｲ 生徒向け研修の継続ｱ　支援・教育相談委員会を月１回程度開催ｲ　自己診断（保護者・生徒向け）「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価（第三、四評価の合計）を、生徒向け22%以下（R１年度29%）保護者向け17%以下（R１年度21%）にするｱ　保護者メール配信システムの維持。またそれにより、教員の保護者連絡の負担を一部軽減する。ｲ　生徒全員の登録ｱ　実践があるかどうか | ｱ・自己診断「制服・遅刻・頭髪指導は適切である。」第一評価は42%（R1,37%）（○）・自己診断「先生の指導は納得できる」第一評価は37%（R1,34%）（△）ｲ 生徒向け研修は実施済み。SNSに関するトラブル、いじめ等は起こっていない。（○）ｱ　支援・教育相談委員会は５回実施、生徒の登校が６月からであった影響もあるが、月１回のペースではできていない。次年度は職員会議の後などの隙間の時間の活用をより一層考える必要がある。（△）ｲ　自己診断（保護者・生徒向け）「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価は、生徒向け29%（R１年度29%）保護者向け19%（R１年度21%）（△）生徒向け「保健だより」等で相談窓口の周知に努めているが、教職員からの一層の声掛けが必要なのかもしれない。ｱ　コロナ禍の中、メール配信システムが大いに活躍した。教員からの保護者連絡の負担がかなり軽減された。（○）ｲ　生徒全員の登録はほぼ完了。学校支援クラウドサービスも活用している（○）ｱ　各学年の授業担当者会議の際、当該生徒の成績、顔写真をモニターに映し出し会議を進めた。（○） |
| オ　グローバル人材の育成 | 1. 日本語指導の必要な帰国生徒外国人生徒の指導
2. 国際交流の推進
 | 1. 合格時からの指導の充実
2. 生徒の短期語学研修の充実
3. 外国の学校との相互交流の実施
 | 1. 高校生活が円滑にスタートできるよう合格決定後から早期の支援を継続実施する
2. 短期語学研修参加者10名程度維持する

　　　　　　　　　　　　（R1,19人）1. １校以上（R1,3校）の交流を受け入れる
 | ｱ　コロナ禍の中、個別登校指導で早期の支援を実施した。（○）ｱ　短期語学研修はコロナの影響で中止（－）ｲ　中国と韓国のそれぞれの相手校とオンラインによる交流会を開催した。（○） |